

<751>

私の橋歴は、大学の授業で構造力学に興味を抱き、大学院で曰木恒雄博士の熱心な指導のもと、曲線多室箱桁橋の断面変形を考慮した解析方法に関する研究を行ったことから始まります。

橋に関する仕事に就きたいと考え、昭和60年4月に現在の会社に入社しました。最初に携わったのは高架橋の検討業務で、走行車両による応答解析と橋脚隅角部の疲労

ながら長岡技術科学大学の大学院博士課程にて研究する機会を与えて頂きました。林正博士の指導のもと、橋梁の多目的最適構造設計に関する研究を行い、斜張橋ケーブルの最適プレストレス量の決定等に適用しました。林先生からは厳しくも温

の計画設計に携わった際、設計基準の各規定の安全余裕度を確認しな

る安全余裕度を確認しな

化や考え方の違いを感じながらも一緒に仕事ができ

きたことは、とても貴重な経験です。

今まで数多くの橋に出

会い、また業務や委員会を通じて社内だけでなく

官公庁や大学、民間他社

の多くの技術者や研究者

と出会ったことができた

ことを認識しました。

様々な出会いに感謝

大日本コンサルタント株式会社

保全エンジニアリング
研究所 長 平山 博

が最盛期で、長大橋の設計にも携わる機会に恵まれました。来島大橋の計画設計では4径間吊橋案の構造検討を、多々羅大橋の検討業務では支間長の変化に伴う斜張橋の構造特性調査を担当させて頂き、座屈や耐風設計等を学びました。これを機

かいご指導を賜り、技術的課題を解決するための物事の捉え方の本質を教

補強設計に携わる機会も

多くなりました。最も印

象深いのは明石海峡大橋

の耐震性能調査業務で

想定外の地震で損傷

が予想される部材をわざ

と切断し、その時の橋全

体の挙動を調べることに

得ました。中国やベトナム

10年間携わっています。新湊大橋は思い入れの強い橋梁の一つです。

次回は、明石海峡大橋の耐震性能調査業務等大変お世話になりました。

に吊橋と斜張橋の設計に係わっていきたくと思うようになりました。

平成5年4月からは会社に戻り、海峡横断プロジェクトの調査業務に

参加し、海外の架橋計画

本州四国連絡高速道路の

福永勸様にバトンをお渡

また、海外の架橋計画本州四国連絡高速道路の福永勸様にバトンをお渡

平成2年4月からの3

知の領域である支間長3000級級の超長大吊橋

また、海外の架橋計画本州四国連絡高速道路の福永勸様にバトンをお渡

